

## 令和6年4月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

原材料・エネルギー価格等の高騰に対する価格転嫁は一部に止まり、収益の改善は進んでいないものの、人や物の流れが活発になりサービス業や運輸業等の非製造業を中心に売上が増加していることから、4月期の景況DI値は改善している。

しかしながら、多くの業種において深刻な人手不足が経営の足かせとなっており、原材料・エネルギー価格や人件費の上昇分の価格転嫁が十分できず、人材確保のための賃上げ原資の確保に苦慮する中であって、燃料費や電気料金等の補助打ち切りを懸念する声も寄せられている。




### 山口県の主要指標 DI 値（令和6年4月末現在）





※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。


業界の景況	( < 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 > )
	前年同月比は、好転：8.8% 悪化：28.8% DI 値：▲20.0% ポイント
売上高	( < 増加 > - < 減少 > = < DI 値 > )
	前年同月比は、増加：26.3% 減少：18.8% DI 値：▲7.5% ポイント
収益状況	( < 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 > )
	前年同月比は、好転：12.5% 悪化：27.5% DI 値：▲15.0% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和6年4月末現在）

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲30 以上	▲30 未満

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲50.0	▲33.3	▲100.0	0.0	▲50.0	0.0	▲33.3	▲34.4
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲20.0	▲28.6	▲16.7	18.2	▲36.4	28.6	▲100.0	▲10.4
							

全 体
▲20.0


## 特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>運送業の働き方改革による影響が少なからずある。給与のベースアップ等厳しい状況である。</p>	調味料製造業
	<p>もちまき需要が増加する一方、イベントは週末に集中するため対応できる組合員が限られている。価格、納品方法など組合に利益をもたらす手法を組合員の声を聞きながら検討する必要があると思われる。</p>	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	<p>学校給食の新調理場新設に伴い製造数が 30%減少したため、売上が減少した。</p>	パン・菓子製造業 下関市
	<p>原料魚の水揚げが減少しており、魚価が上昇している。深刻な人手不足が続いている。</p>	水産食料品製造業 長門市
	<p>コロナが5類移行となり催事等が行われるようになって、関連した商品を取り扱っている企業は、少しずつコロナ前に戻ってきているようだが、円安の影響により取り扱う商品に変化が出てきている模様。4月はゴールデンウィークもあり、そこそこの商品の出荷があった。昨年より旅行客等も増加し人の動きも良くなったが、旅行客のお金の使い方に変化がみられ、動く商品の種類も限られてきているようである。</p>	水産食料品製造業 下関市
	<p>新年度始めは、ゆっくりであったが後半にかけて売上が伸びてきた。遅咲きの桜も開花し、人やモノが動く行楽シーズンの到来である。天候が安定せず雨や寒い日が続いたことで野菜の高騰が続いており、旬の野菜を中心に、メニューを決めるのも一苦勞である。農繁期に入り、交代で出勤してはいるが、怪我や病気で更に人数が減少することのないよう、しっかりと休息をとるよう心掛けている。</p>	食料品製造業
	<p>コロナの影響がほぼなくなり、売上は例年並みとなった。4月とは思えないような長雨が、農産物の生産に大きな影響を与えることが考察される。1ドルが 150 円を超える等急激に円安が進み、肥料、燃料等各種コストが大幅に増加、それに伴う製造原価の上昇により事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げをかたくなに拒否するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入など、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。また、日本の発電量に占める化石燃料の利用率約 70%という数値も国際社会的にみても異常に高く、早急に自然エネルギーの利用と原子力発電の利用を 70%にさせるなどの改善が必要である。ロシアがウクライナに侵攻して2年以上が経過したが、ウクライナの状況悪化という情報が伝わる等、世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されてい</p>	精穀・製粉業

	る。国際的な原油価格が上昇し、それに伴って、肥料価格が前年比160%アップという驚異的な結果となっている。政府の原油価格上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、特にガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要。	
繊維工業	繊維業界全体の動向は良くない模様だが、組合員事業所は横這い状態である。	外衣・シャツ製造業
	家業形態のテント業者が多く、跡継ぎがいないため、業者不足により、他地区への請負が増加した。	帆布製品製造業
木材・木製品	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和5年4月と比べ25%の減少。(コロナによる影響が出始めた時期は令和2年4月、令和5年3月頃には概ね収束の方向であった。)外国産広葉樹が高騰し価格転嫁が追いつかない。バイオマス燃料用丸太の急騰や運賃価格の上昇に対しても価格転嫁が追いつかない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	新年度となり食品関連の値上げラッシュが続き、ここ数年にはないベースアップ率の回答や、優秀な人材を確保するため初任給の大幅な改定に踏み切る等、製造業を中心とした大手企業では賃金の引上げが確実に進んでいると思料されるが、中小企業においてはまだまだ厳しい状況が続いており、社員の賃金の水準は低いのが現状である。印刷業界も他の業種同様に、若年層の定着率の低さは深刻であり、技術やノウハウの継承がスムーズに行えない等のジレンマを抱えている。デジタル化が進み合理化、効率化が進む一方で、技術大国である日本の優位性の低下が懸念される。	印刷業 山口市
	年度初めは、例年通り新規物件もあったが、無くなった物件もあり、プラスマイナスゼロのスタートであった。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	運送業の2024年問題について、賃金アップ及び人材確保による運賃値上げの話が多々聞かれる。その状況を原価に反映させた結果、4月の発注物件より20%程度の値上げ実施の陳情活動を行っている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	4月になっても発注物件が少なく、受注、出荷が出てこない。小口注文の運送費割増を求めたいが、発注単価に反映されていないため、要求しにくい現状である。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比115%、前年同月比120%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	ゴールデンウィークで帰郷された方の依頼で対応が忙しくなりそうである。作業には十分な日にちを要することを説明している。	石工品製造業
	外国人観光客、団体観光客も多く見られるようになった。4月4日、22日、24日にフランス船籍、ポルトガル船籍のクルーズ船が寄港。市内観光を楽しまれ、萩焼も購入いただいた。	陶磁器・同関連 製品製造業

一般機器	令和6年の年度初めも、例年同様に全体的にゆっくりとしたスタートの様様。ほとんどの企業で新卒者の採用ができておらず、益々若い人が減少していることを、皆実感している。	一般機械器具製造業 下松市
	業況に大きな変化はないが、時期的な要因もあり既存の取引先からの受注状況が芳しくない中、新規取引を拡大しているが、これに伴う営業や設計における人員、設備などのリソース不足により十分な成果があげられない状況がある。新規受注も入ってきているが人手不足が継続しており、採用投資への費用負担も大きくなっている。原材料費や諸経費の値上がり分はかなり価格転嫁できており、今後設備投資と人材育成、増員を行っていく。	一般機械器具製造業 防府市
	中国の景気悪化の先行きが見えない状況の中、各社とも当面の事業量を確保し順調であるが、人材の確保に苦慮している。サービス業、飲食業、特に介護事業においては人材の確保が困難な状況である。大企業による大幅な賃上げが予定されているが、中小企業には至難の業であり、AI化、機械化等の構造改革も簡単にできることでもなく、正規、非正規を問わず日本人の人材を確保することは困難を極めている。外国人人材確保の面でも、低賃金、円安の影響は大きく、ベトナムでは高賃金を求めてドイツ、オーストラリアへ、簡易な手続きで行ける韓国、台湾への人気が高くなっている。世界各国との人材確保競争はますます厳しくなっており、今後は多数の人口を抱えるインドからの受け入れが多くなることが想定される。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。	一般機械器具製造業 宇部市
	大きな変化は見られない。人材確保も厳しい状況にある。	
	前月と同様で、送出し機関が外国人実習生候補生を見つけられないという現状であり、特に変化はない。	一般機械器具製造業 下関市
輸送機器	鉄道車両関係の受注量は2024年度以降減少となる見通し。2026年度から台湾新幹線の受注見込みがあり回復の兆しは見えるものの確定までは至っていない。人件費や原材料費・電気料等の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測よりも大幅に受注量が減少し低位で推移しているが2024年度後半には復調の兆しあり。日立ハイテクの新工場建設（2025年稼働予定）における受注増加に期待。	鉄道車両・ 同部品製造業
卸売業	倉庫保管量は増加しているが入出庫量がやや減少傾向にあり、荷役料があまり発生していないため、前年同月より売上は減少した。例年に比して売上はやや増加である。	乾物卸売業
	漁港の水揚げ、各地からの集荷量とも少なく、魚価は上がっているが、売上と利益は前年を下回った。	生鮮・魚介卸売業

	原材料費、燃料費、電気代等の値上げにより仕入れ価格が上昇、収益に影響がある。	各種商品卸売業 山口市
小売業	暖かくなるにつれて日差しも強くなり日焼け止めなどの商品が少しずつ動き始め、日焼けした肌や花粉症で傷んだ肌を回復するような美容液も売れ始め、売上は昨年より増加している。4月は大手化粧品メーカーから店頭を賑わせる商品（限定リップクリーム）が発売され、某アイドルグループ男性がプロデュースのこともあり予約段階から注文が殺到、SNS上でもトレンド入りした。オンラインの多様化が進む中であるが、メーカーでは店頭での体験価値向上に力を入れていくそうである。お客様の取扱いメーカーによっても方向性は変わるが、化粧品の良さを体感し、信頼してもらうために店頭活動を頑張っている。	化粧品小売業
	4月の売上げ状況は、前年同月比15%減少。2店舗の休業が、行楽シーズンにおける売上げ機会の損失に繋がっている。また、人手不足により店休日を設ける店が増加していることも、売上げ減少の要因になっている。	各種商品小売業 萩市
	4月の供給高は前年比100.1%、来店者数100.7%。商品価格の値上がりが続いている。来店者数は微増だが、家計の圧迫により食費は削られている模様。	各種商品小売業 下関市
商店街	大型連休を見据えた春商戦のスタート。3月以降の購買回復は見られるものの、物販業に限っては、購買行動やモチベーション喚起が大きく変化し、大都市志向、ネット通販志向へのシフト等、地方都市の小売り商業は全般的に悪化している。円安の影響や個人所得への負担増は購買意欲を大きく阻害し、実質的な減収になっていなくても、先行き不安から購買を控える、価格競争が激化する等著しい状況。飲食業では原材料費や燃料費、資材等の販売コストが高騰する一方で、値上げに神経質にならざるを得ない現場があり、値上げのない大手資本へ顧客が流れる傾向が否めない。繁盛店と不振店の格差が広がり、コロナ後の廃業や倒産も顕著である。	岩国市
	商店街は来街目的を持ったお客様が多く、対策のできていない店舗は来客が減少している模様。青果業の現状は、異常気象や円安の影響による価格高騰で厳しい状況が続いている。	山口市
	4月17日に「TOKUYAMA DECK」がオープニングセレモニーを行い、ニュース等でも報道された。翌18日には、目玉でもある「業務スーパー」がオープンし、山口県東部初店舗ということもあって、オープン前からかなりの行列ができるほどの盛況ぶりであった。2階部分にはまだ空き店舗もあるが徐々に埋まっていくとのこと、今後に期待したい。	周南市
	景気は益々下降傾向であり、打つ手はプレミアム商品券しか思い浮かばない。先の見通しが全く立たない。	宇部市

	食品に関しては業務スーパーの売上が増加しており、販売価格数%アップ、売出しも実施している。プレミアム商品券が全家庭に配布された効果もあり売上が増加した。一般買回り品については厳しい。『ブックカフェ』を新規にオープンし、現状は厳しいが「楽しくやっぺいこう」と組合内で話をしている。	萩市
	4月に入り売上げ増加に転じると思われたが、まだまだ消費者の買い控えが続き、売上は伸びない。燃料費や電気代等、政府の補助が打ち切られた後が不安である。	下関市
サービス業	仕入価格や光熱費の高騰により、客数は増加しているものの採算面は変わらない。	理容業
	中国地方における令和6年3月の新車新規登録台数は対前年同月比24.8%減となり、3ヶ月連続でマイナス、軽自動車も22.7%減となった。大手自動車メーカーの出荷停止が長期にわたり大きく影響を及ぼしている。新年度、出荷が再開されたことを踏まえ今後の動向を注視したい。コロナ感染症対策の緩和に伴い、観光等出かける機会も増加していることから自動車購入等の増加を期待する。	自動車整備業
	値上げで売上高は少し上がり、入会動向は若干良くなった。ただし地域差がある。	スポーツ・健康教授業
	3月なっても寒い日が続き衣替えのスタートが遅く、前年同月比売上が減少したため、4月に挽回できるように各事業所は取り組んだ模様。トータルでは前年を超えることができた事業所も少なくないようだが、売上は増加するも数量は前年と比して減少しており、値上により消費者の財布のひもが固くなったことに起因すると思われる。クリーニング業界も受注点数や売上よりも利益を残す仕事が求められている。	普通洗濯業
	外国人観光客をよく見かけるようになり、問い合わせもある。ゴールデンウィークも観光客で賑わいそうである。	飲食業
	前年同月比の売上は108.0%、宿泊人員は106.7%。建て替えのための1施設の閉鎖分もカバーでき、インバウンドの宿泊者数は152.3%と大きく伸びている。ニューヨークタイムズの記事の影響が徐々に表れてきていると思われる。	旅館業 山口市
	施設利用者数、入浴者数は前年と同数、売上高も前年比同じであった。コロナ禍後で住民の移動が自由となり、スポーツ施設の利用が増加し、合宿人数が増加してきたが、依然として経費が増額しており、収益は悪化している。	旅館業 長門市
建設業	中電への工事申請77件(当支部53件)、前年同月74件(同56件)。太陽光発電への申請16件(前年10件)、オール電化申請37件(前年10件)。LED街路灯への切り替え・新設申3件(前年6件)であった。	電気工事業
	技能者の減少が工事量の減少を上回っており、人員不足で困っている現場が発生している。	左官工事業

	<p>官公需の入札案件は年度替わりでもあり、無かったが、中旬から民間工事の申請案件が徐々に増えている。周南市のメンテナンス年間請負契約が叶わなかったため、今年度も厳しい組合運営となるが、今後の入札に期待している。雇用人員は不変であるが、新規就業者が無く作業員が高齢化しており、猛暑の中での働き方が気がかりである。水漏れ等トラブル対応に備える必要があるため、完全週休二日制が進めにくい職種であるが、新規就業者獲得のため、完全週休二日制の導入をした会社もある。</p>	管工事業
	<p>直近の仕事量は確保できているが、小規模工事が中心となっている。見積物件が増加した組合員もあるが、令和7年、8年の工事予算取りが中心であり、受注できるかは不透明である。原材料の値上げにより加工単価が厳しい状況。</p>	鉄骨・鉄筋工事業
	<p>新年度予算が成立し、異次元の金融緩和が正常化しつつある。33年ぶりとなる円安が進んでいるが、少しでも円高に推移すれば国債の利払いに苦しむことになり、財政の健全化は当分望めない。物価上昇を越える賃上げをと政府が旗を振り、大企業においては5%を超えるベースアップが実現したものの、中小企業はそれについていけない。庶民の生活実態は、賃上げの恩恵に浴してはいない。土木建設業界はほぼ例年通りの発注であったが、組合員以外の受注も多く、受注額は減少している。公共事業が頼りの地方においては、積極的なインフラへの投資が求められる。</p>	一般土木工事業 柳井市
	<p>4月の受注高は、対前年同月比86.9%。今年度の累計では対前年比49.0%。</p>	一般土木工事業 萩市
運輸業	<p>4月よりETCの大口利用組合員のETC脱退により、大口割引が適用されなくなったため、他の組合員にとってはマイナスとなる等影響がある。依然として人手不足は深刻であり、2024年問題の最中、思ったほどの運賃の値上げもなく、運送業界は厳しい状況に置かれている。燃料は依然として高値ではあるが横ばい状態である。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>車両関連においての輸送取扱高は前月比30%程度の増加となり順調に回復している。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>物流に関しては、荷物運送、倉庫保管量共に増加している。特に建築・工業製品関係が増加している模様。依然として庸車の確保は難しく、車両が不足している状況が続いている。人員の動きが激しく安定した人員確保が望まれる。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+1.9%（令和6年3月1日～令和6年4月20日分）だった。3月1日～末日分は▲7.0%、4月1日～20日分は+20.4%。タクシー業界だけかもしれないが、3月分は減少になった。（令和5年8月運賃改正で単価は10.61%値上がりしているのだが）。4月分は上昇しつつあるが、安定した回復になるかどうか確信が持てない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。3月分については、周南▲5.1%、下松+9.7%、光+2.2%、防府市地区が▲7.3%で、組合員の全域では▲4.4%、地区外（員外）▲25.0%、合計▲7.0%（▲1,226千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）や為替によって変動する。燃料単価は、4月分は▲1円/リットルになったが、前年よりも+2円。マスコミでも話題になっているが、タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。実働車両が大幅に減少している。営業車両を減車するタクシー会社や、個人タクシーの廃業があった。乗務員さえ確保できたら、もっと売上が増やせるのだが、という意見をよく聞く。出勤した乗務員の稼働率は高いので一人当たりの売上や給料は以前より上昇しているが、稼働台数が少ないため合計売上額が増加しない。固定経費の多い本社経費を差し引くと、タクシー会社の経営はたいへん厳しい模様。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>対前年比で若干の取扱量が増加しているが、季節的要因もあるため、相対的には、同水準の経過である。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他</p>	<p>6月からの新しい介護報酬が発表されているが、原材料費等の高騰や人件費の上昇分を賄えるほどの増額にはなっておらず、引き続き厳しい状況が続いている。介護保険等の報酬は国によって決められているため、勝手に報酬を上げることはできない。価格転嫁できず、収益は厳しい事業所が多いと聞いている。</p>	<p>介護事業</p>